

京丹波町

1 圏域の現状分析

1.1 背景

➤ 統計

指標	京丹波町	京都府
総人口	12,907 人	2,578,087 人
日本人人口	12,721 人	2,460,764 人
出生率	3.3%	6.9%
合計特殊出生率	1.39	1.32
高齢化率（65歳以上の者の割合）	44.5%	29.4%
前期高齢者割合（65～74歳の者の割合）	20.0%	14.0%
後期高齢者割合（75歳以上の者の割合）	24.5%	15.4%
死亡率	22.2%	11.0%
平均寿命（0歳時平均余命）[95%CI]	男性：81.0年 [78.7, 83.3] 女性：88.3年 [86.5, 90.1]	男性：82.4年 [82.2, 82.6] 女性：88.4年 [88.2, 88.6]
健康寿命（日常生活に制限のない期間の平均）[95%CI]	—	男性：72.7年 [71.9, 73.5] 女性：73.7年 [72.7, 74.7]
平均自立期間（要介護度1以下の期間の平均）[95%CI]	男性：79.3年 [77.2, 81.3] 女性：84.1年 [82.6, 85.5]	男性：80.4年 [80.2, 80.6] 女性：84.3年 [84.1, 84.5]
医療保険加入者数（市町村国保+けんぽ）	7,392 人	1,191,565 人
特定健診対象者数（上記のうち40～74歳の加入者数）	5,174 人	775,889 人
特定健診実施率（市町村国保+けんぽ）	42.7%	38.0%
がん検診受診率		
肺がん	10.6%	2.3%
大腸がん	0.0% (コロナ感染症のため実施なし)	3.5%
胃がん	14.7%	2.8%
子宮頸がん	32.3%	10.7%
乳がん	21.8%	11.7%

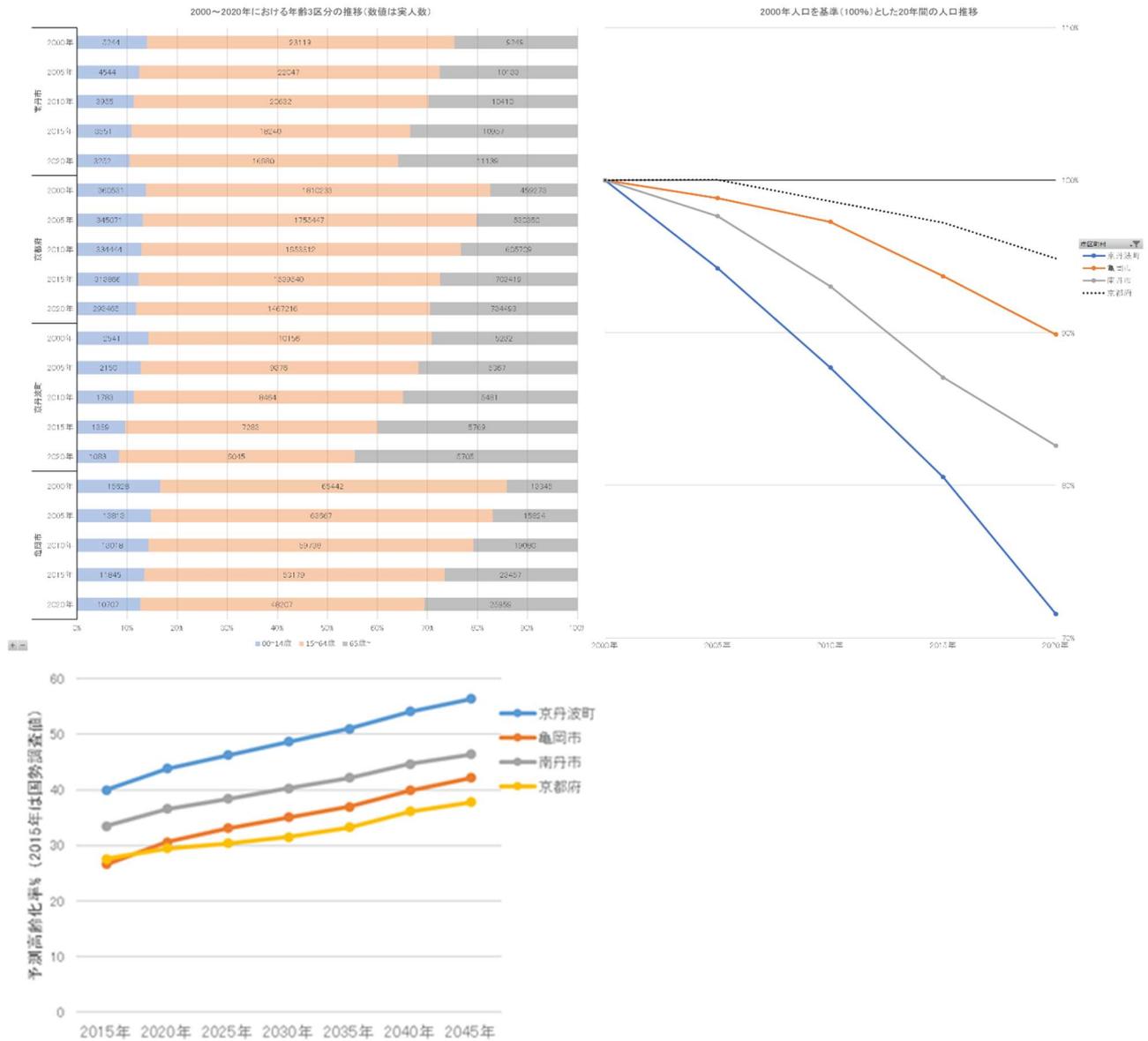
[出典]人口・高齢化率：令和2年国勢調査、年間出生数・死亡者数：令和元年年人口動態調査、合計特殊出生率：人口動態統計特殊報告（平成25～29年人口動態保健所・市区町村別統計）、平均寿命・平均自立期間：国保データベース（KDB）システムによる算出値（令和2年値）、健康寿命：健康日本21（第二次）の総合的評価と次期健康づくり運動に向けた研究（令和元～3年度）都道府県別健康寿命（2010～2019年）（令和3年度分担研究報告書の付表）、医療保険加入者・対象者数・特定健診実施率：京都府健診・医療・介護総合データベース（令和2年値）、がん検診受診率：令和2年度地域保健・健康増進事業報告

- ※（粗）出生率＝1年間の出生数÷日本人人口×1,000、前期高齢者割合＝高齢化率-後期高齢者割合、（粗）死亡率＝1年間の死亡者数÷日本人人口×1,000、特定健診受診率＝受診者数÷対象者数×100（いずれも日本人人口は令和2年国勢調査値）
- ※ 平均寿命・健康寿命・平均自立期間については保健所・2次医療圏単位のデータは公開されていない
- ※ 協会けんぽの医療保険加入者数は、協会けんぽ京都支部加入者の内、郵便番号から居住市町村名が判明している者のみ集計した。また、資格取得・喪失状況を加味した上で月ごとの加入者数を1年分足し合わせた後に12で除した値（月平均）を利用
- ※ 特定健診実施率とは、特定健診対象者数のうち特定健診を受診し、かつ「特定健康診査及び特定保健指導の実施に関する基準」第1号第1項各号に定める項目の全てを実施した者の割合のことである
- ※ 京都府の胃及び乳がん検診受診率は、京都市の2年連続受診者数を全国値より推計し京都市を含めて新たに算出した値である

➤ 経年推移

本町の人口は2000年には17,929人であったが、近隣市町と比較しても急速な減少傾向にあり、2020年には12,833人（2000年比3割減）となっている。一方、65歳以上の者の割合を示す高齢化率は上昇の一途をたどり45%となっており、予測高齢化率からも今後も上昇していくことが推測される。

このような状況を踏まえ、地域の特性に合わせた保健事業の展開が求められている。



[出典] 上図：平成12年～令和2年国勢調査、下図：国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』（平成30（2018）年推計）

➤ 京丹波町の特徴

本町は平成17年10月に3町（丹波町・瑞穂町・和知町）が合併し京丹波町となる。京都府の中央部、丹波高原の由良川上流部に位置し、東は南丹市、西は福知山市、北は綾部市、南は南丹市および兵庫県丹波篠山市に接している。標高400～900mの山に囲まれ、面積303.07平方キロメートルの

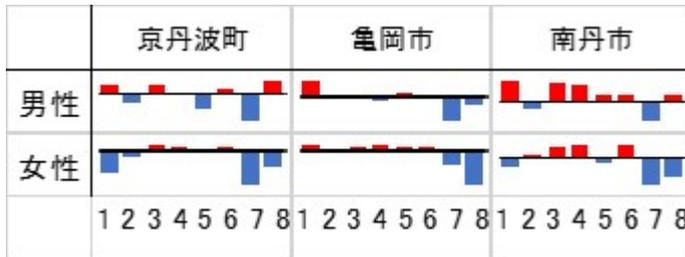
農村で、このうち約 83%を森林が占め、間を縫って耕地が広がり、集落が点在している。主な交通網は京都縦貫自動車道や JR 山陰本線、3 つの国道（国道 9 号線、27 号線、173 号線）がある。町民の健康を守る施設として、国保京丹波病院を中心に 3 つの町立医療機関がある。福祉施設は特別養護老人ホーム（小規模含む）が 4、介護老人保健施設が 1、介護療養型医療施設が 1 の他、グループホームが 3 ユニットある。介護サービス利用者の約 3 割を占める施設利用者に介護保険給付費の約 5 割を給付する施設依存型の傾向が見られる。

1.2 生活習慣

▶ 特定健診質問票項目

特定健診質問票項目の標準化該当比を見ると、男性は毎日飲酒、喫煙、運動なし、毎日間食の項目が府と比較しリスクが高い。女性は運動なし、歩行なし、毎日間食が高くなっている。

特定健診質問票の標準化該当比：1 現在喫煙、2 体重増加、3 運動なし、4 歩行なし、5 就寝前食事、6 毎日間食、7 朝欠食、8 毎日飲酒



[出典]京都市健診・医療・介護総合データベース（令和 2 年）

- ※ スパークラインの各基線は当該年度の京都市全体を表しており基線を上回れば（=赤棒）期待値を上回る該当がある（=当該項目が府と比べて比較的高リスクである）ことを表す
- ※ 棒線の長さは性・市町村間での各項目間の相対的なリスクの大きさを表すため市町村間で棒線の長さの単純比較はできない

▶ その他調査結果

本町では、住民健診の場において尿中塩分測定を 5 年ごとに行っている。令和元年度には平成 26 年度に引き続き検査を実施した。その結果、5 年前と比較すると男性女性ともにナトリウムカリウム比が改善しただけでなく、女性の食塩摂取量も改善した。

	推定食塩摂取量	
	男性	女性
H26	9.4g	9.1g
R1	9.5g	8.9g

	Na / K	
	男性	女性
H26	5.3	5.0
R1	5.2	4.7

[資料]京丹波町住民健診での尿中塩分測定結果健診

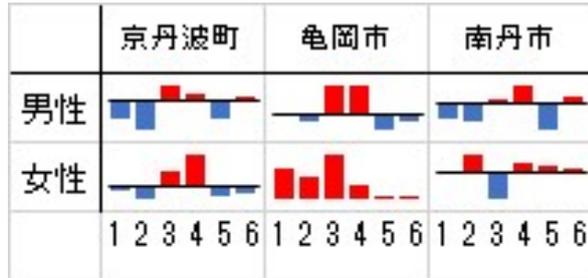
- ※ 対象は 19～74 歳。H26 年度：男性 n=748、女性 n=1,030、R1 年度：男性 n=618、女性 n=758

1.3 健診有所見

➤ リスク該当の割合

本町は、府平均と比較して男性女性ともにメタボ予備群の者が多く、また特に女性では血圧リスクのある者が多い。

特定健診質問票の標準化該当比：1 肥満、2 メタボ、3 メタボ予備群、4 血圧リスク、5 脂質リスク、6 血糖リスク



[出典] 京都府健診・医療・介護総合データベース（令和2年）

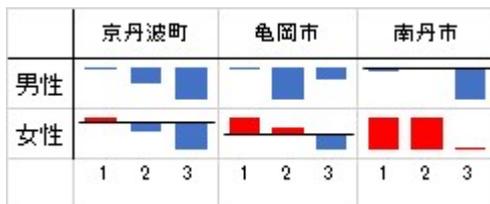
- ※ スパークラインの各基線は当該年度の京都府全体を表しており基線を上回れば（=赤棒）期待値を上回る該当がある（=当該項目が府と比べて比較的高リスクである）ことを表す
- ※ 棒線の長さは性・市町村内での各項目間の相対的なリスクの大きさを表すため市町村間で棒線の長さの単純比較はできない
- ※ 血圧・脂質・血糖リスクの定義については「標準化該当比を用いた市町村別特定健診の分析」を参照のこと

1.4 生活習慣病（がん除く）

➤ 服薬の有無

本町は府平均と比較して、女性の降圧薬を使用する者がやや多い。

特定健診質問票の標準化該当比：1 降圧薬の使用、2 脂質異常症治療薬の使用、3 血糖降下薬（インスリン含む）の使用



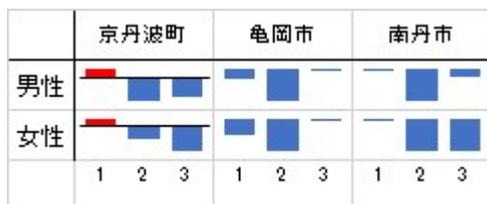
[出典] 京都府健診・医療・介護総合データベース（令和2年）

- ※ スパークラインの各基線は当該年度の京都府全体を表しており基線を上回れば（=赤棒）期待値を上回る該当がある（=当該項目が府と比べて比較的高リスクである）ことを表す
- ※ 棒線の長さは性・市町村内での各項目間の相対的なリスクの大きさを表すため市町村間で棒線の長さの単純比較はできない

➤ 受療状況

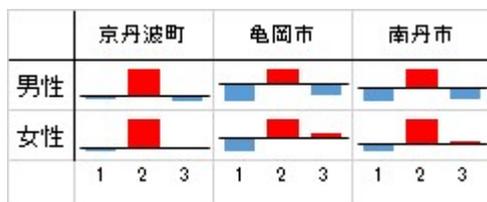
本町は府平均と比較して、男性女性ともに高血圧性疾患の受療者数比が高くなっている。また国と比較すると、男性女性ともに脂質異常症の受療者数比が高くなっている。

府基準の標準化受療者数比：1 高血圧性疾患、2 脂質異常症、3 糖尿病



[出典]京都市健診・医療・介護総合データベース（令和2年）

国基準の標準化受療者数比：1 高血圧性疾患、2 脂質異常症、3 糖尿病



[出典]京都市健診・医療・介護総合データベース（令和2年）、令和2年患者調査、令和2年国勢調査

- ※ スパークラインの各基線は当該年度の京都府全体を表しており基線を上回れば（=赤棒）期待値を上回る該当がある（=当該項目が府と比べて比較的高リスクである）ことを表す
- ※ 棒線の長さは性・市町村内での各項目間の相対的な件数比の大きさを表すため市町村間で棒線の長さの単純比較はできない
- ※ 府基準の該当比の算出においては、各保険者（市町村国保+協会けんぽ+後期高齢）のレセプトデータから各疾患の受療者を集計し、これと加入者数を用いて各市町村の受療者数の期待値を計算した。また、全国基準の算出においては、府の受療率と各市町村の年齢階級人口から患者数を計算し、これに府基準の該当比を掛け合わせることで市町村の受療者数とした。
- ※ 府基準該当比の計算においては各圏域（京都・乙訓、山城北、山城南、南丹、中丹、丹後）を母集団とし、全国基準の計算においては京都府を母集団としてベイズ推定を行った

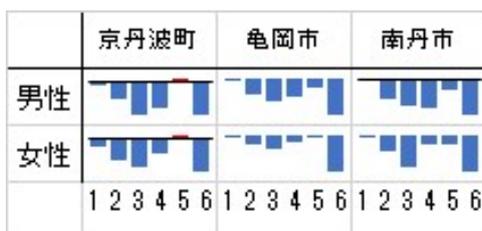
1.5 重症化・がん

➤ 受療状況

本町は府平均・国平均と比較して男性女性ともにやや脳梗塞の受療者数比が高い。胃がんについては、府平均よりは低いが、国平均よりは高くなっている。

府平均・国平均と比較し、脳血管疾患（脳梗塞以外）の受療者数比は低くなっている。

府基準の標準化受療者数比：1 胃がん、2 結腸・直腸がん、3 肺がん、4 虚血性心疾患、5 脳梗塞、6 脳血管疾患（脳梗塞以外）



[出典]京都市健診・医療・介護総合データベース（令和2年）

国基準の標準化受療者数比：1 胃がん、2 結腸・直腸がん、3 肺がん、4 虚血性心疾患、5 脳梗塞、6 脳血管疾患（脳梗塞以外）

	京丹波町	亀岡市	南丹市
男性			
女性			
	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5 6

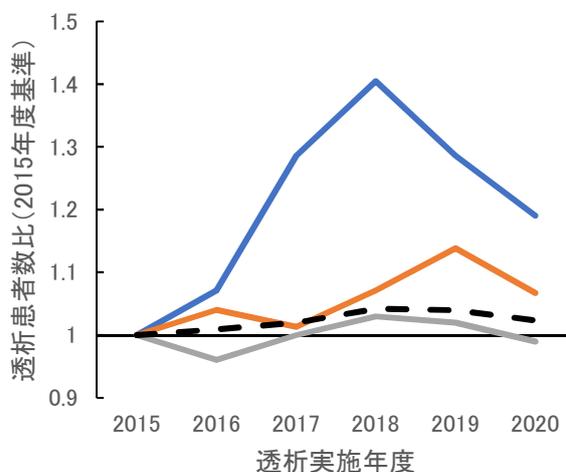
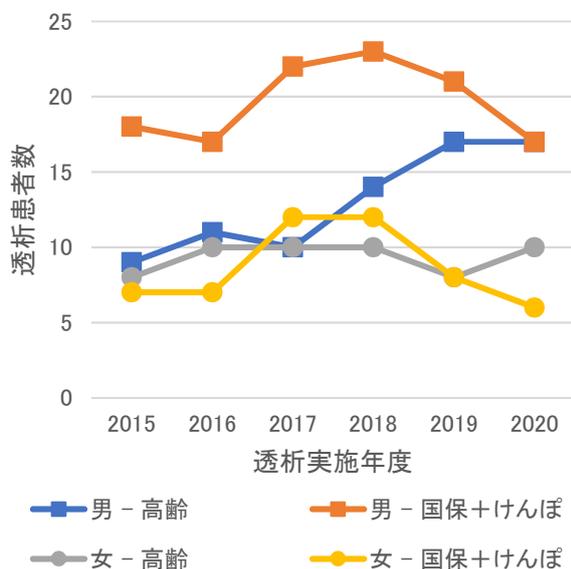
[出典]京都市健診・医療・介護総合データベース（令和2年）、令和2年患者調査、令和2年国勢調査

- ※ スパークラインの各基線は当該年度の京都市全体を表しており基線を上回れば（=赤棒）期待値を上回る該当がある（=当該項目が府と比べて比較的高リスクである）ことを表す
- ※ 棒線の長さは性・市町村内での各項目間の相対的な件数比の大きさを表すため市町村間で棒線の長さの単純比較はできない
- ※ 府基準の該当比の算出においては、各保険者（市町村国保+協会けんぽ+後期高齢）のレセプトデータから各疾患の受療者を集計し、これと加入者数を用いて各市町村の受療者数の期待値を計算した。また、全国基準の算出においては、府の受療率と各市町村の年齢階級人口から患者数を計算し、これに府基準の該当比を掛け合わせることで市町村の受療者数とした。
- ※ 府基準該当比の計算においては各圏域（京都・乙訓、山城北、山城南、南丹、中丹、丹後）を母集団とし、全国基準の計算においては京都府を母集団としてバイズ推定を行った

➤ 透析実施状況

本町では男性の後期高齢者の透析者の割合が増加している。女性では、国保+協会けんぽ加入者で減少している。

透析患者数の総数は、男性女性ともに2018年をピークに減少している。



[出典]京都市健診・医療・介護総合データベース（平成27年度～令和2年度）

- ※ 透析患者を「人工腎臓または腹膜灌流のレセプトが発生している者」と定義して集計
- ※ 左上図の国保は市町村国保を表す（府データベースに国保組合加入者の居住地情報が存在しないため国保組合を含まない）
- ※ 右上図は国保（国保組合除く）+協会けんぽ+後期高齢の3保険における2015年度を基準にした市町村ごとの患者数比を図示

1.6 介護・死亡

➤ 介護

本町の調整済み認定率は15.4%となっており、近隣市町と比較して低い水準である。

サービス受給率について近隣市町と比較すると、在宅・居住サービス受給率は同水準であるが、施設サービス受給率が高い水準である。

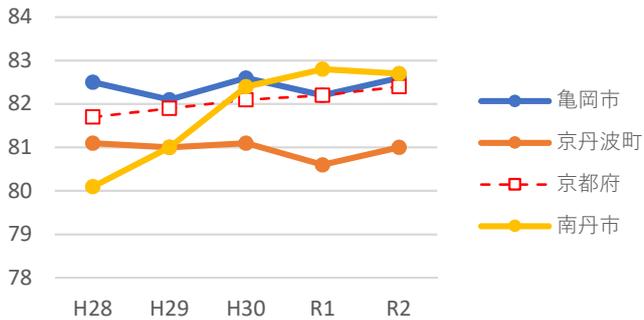
➤ 平均寿命と平均自立期間

本町は京都府と比較し、男性女性ともに平均寿命・平均自立期間ともに下回っている。

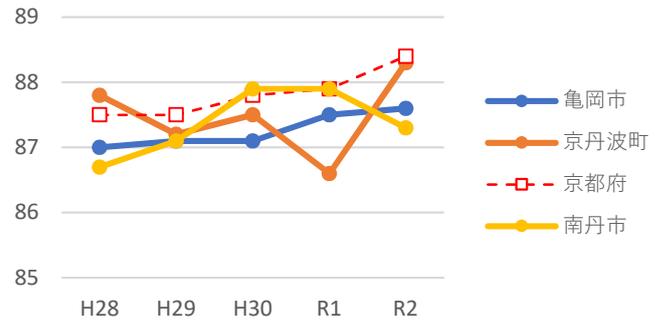
令和2年度の男性の平均寿命は、81.0年となっており、平成28年度に比べて0.1年短縮した。女性については、88.3年で平成28年度から0.5年延伸した。

令和2年度の男性の平均自立期間は、79.3年となっており、平成28年度に比べて0.1年短縮した。女性については、84.1年で平成28年度から0.1年延伸している。

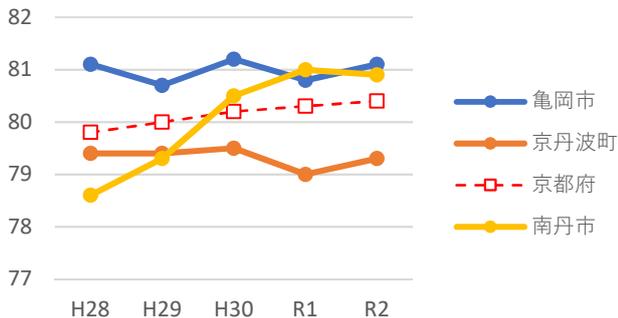
男性・平均寿命の推移



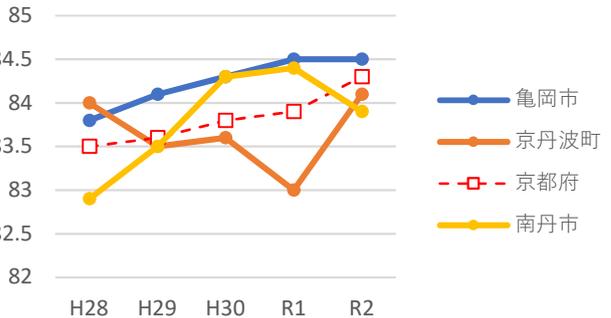
女性・平均寿命の推移



男性・平均自立期間の推移



女性・平均自立期間の推移

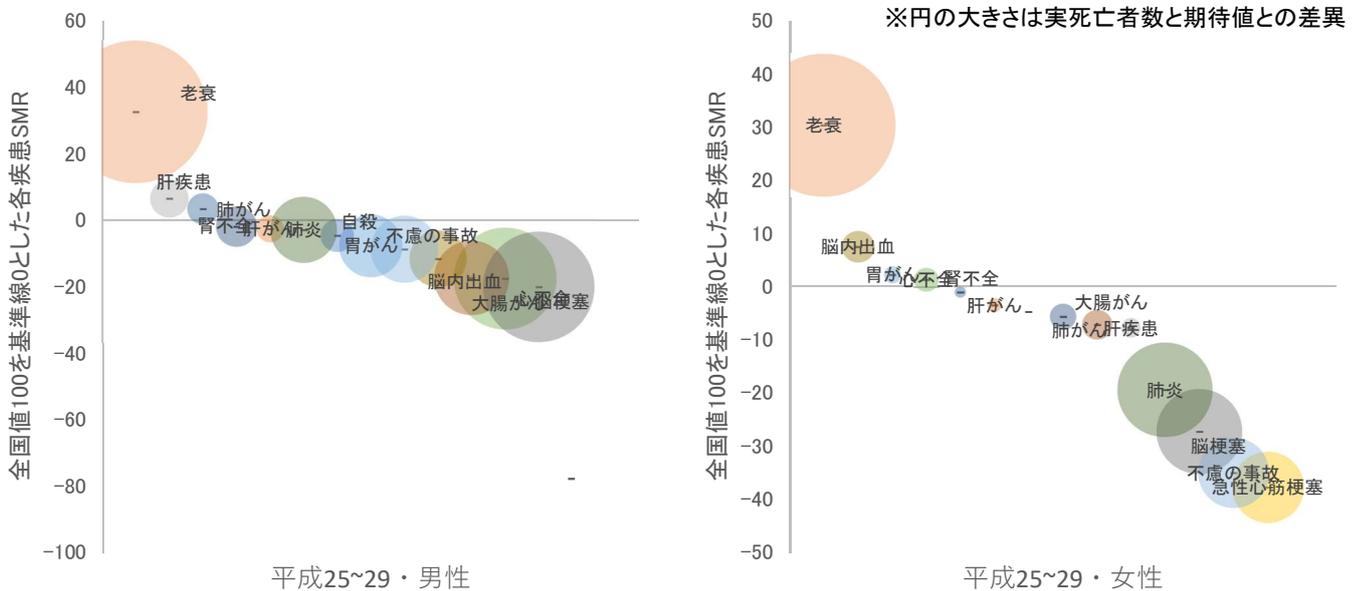


[出典]平均寿命・平均自立期間：国保データベース（KDB）システムによる算出値（平成28～令和2年値）

➤ SMR（標準化死亡比）

本町の SMR（標準化死亡比）をみると、男性女性ともに老衰がかなり高い。男性は肝疾患、次いで肺がんが高い。女性は、脳内出血、次いで胃がん、心不全がやや高い。

男性の脳梗塞、大腸がん、女性の脳梗塞、肺炎は実死亡者数と期待値との差異が大きくなっている。



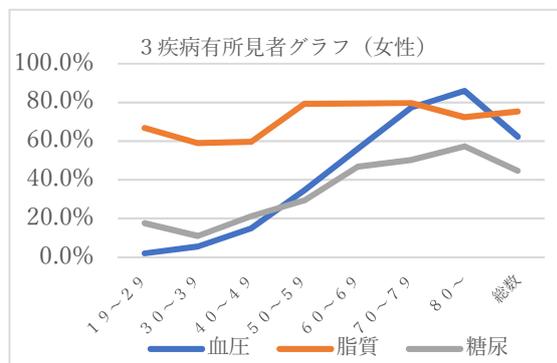
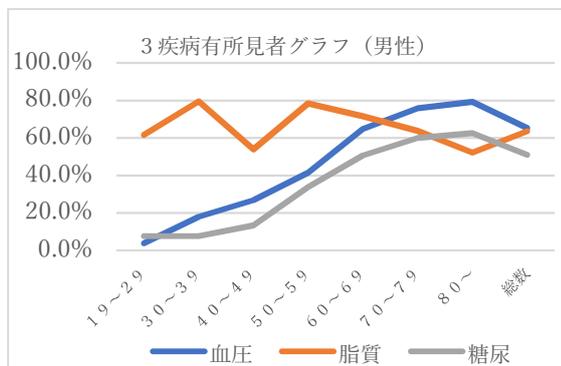
[出典]人口動態統計特殊報告（平成25～29年 人口動態保健所・市区町村別統計）

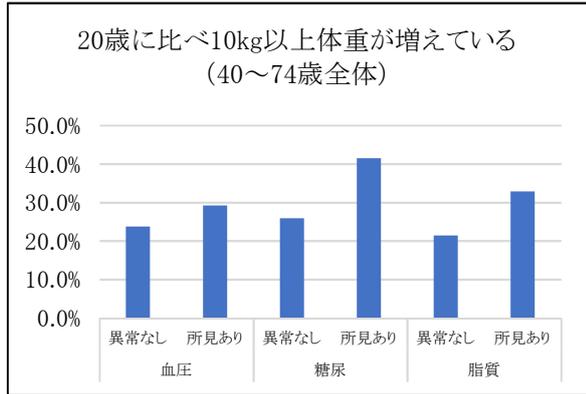
1.7 その他

【令和3年度住民健診結果】

脂質異常は若い年代から有所見者の割合が高い。血压、糖尿は50歳代から有所見者の割合が高くなっている。

20歳に比べ体重が増えている者の有所見者割合は、体重が増えていない者と比較し高い。

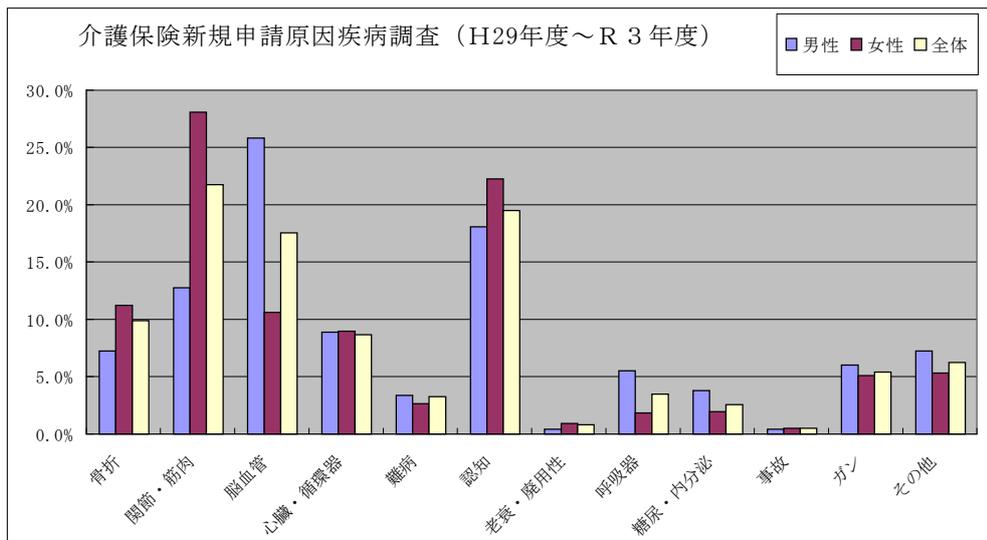




[資料]京丹波町住民健診結果と生活習慣状況まとめ

【介護保険新規申請原因疾病調査】

直近5年間の原因疾患は、関節・筋肉疾患、認知症、脳血管疾患が上位を占める。男性は、脳血管疾患と認知症、女性では関節・筋肉疾患と認知症、骨折が多いのが特徴的である。



[資料]京丹波町介護保険統計

2 地域の健康課題と対応策

2.1 働き盛り世代の生活習慣の改善

特定健診受診者では、男性女性ともに運動習慣なしと毎日間食のリスクが高い。また男性では、喫煙、毎日飲酒のリスクが高い。令和3年度住民健診の結果からも、若い世代、働き盛り世代の3疾病（血圧・糖尿・脂質）の有所見者が多いことが課題となっている。

また、府・国と比較し、脳梗塞の受療者数比も高くなっている。運動の習慣化（ウォーキングアプリ等の推進）や適正な栄養バランス、減塩等の食事指導が必要である。そのほか、男性に対しての喫煙、飲酒に関する啓発が必要である。

2.2 高血圧症予防

特定健診の有所見者では女性の血圧リスクが高く、SMR（標準化死亡比）を見ると脳内出血が高くなっている。介護保険新規申請原因疾病調査からは、男性において脳血管疾患が上位を占めている。また受療者数比からも男性女性ともに高血圧性疾患のリスクが高い。これらのことから、高血圧が重症化し脳血管疾患に至っている可能性が考えられる。

健診結果説明会における個別保健指導や病態別教室の充実により重症化を防ぐとともに、減塩・野菜摂取の推奨を住民全体に広げる「一次予防」が重要である。

2.3 糖尿病予防

脳梗塞の受療者数比が府・国と比較し高くなっている。また介護保険新規申請原因疾病調査では関節・筋肉疾患に次いで認知症が多い。糖尿病は脳梗塞、認知症のリスクを増加させる原因の一つである。特定健診質問票の標準化該当比では、男性女性ともに毎日間食、メタボ予備群の増加、運動習慣なしのリスクが府と比較し高い状況が見られている。また男性では、毎日飲酒、喫煙のリスクが高い。予防対策として、本町の特徴である健診結果説明会での個別保健指導や病態別教室などのアプローチに加え、糖尿病腎症重症化予防事業を中核としたハイリスクアプローチが必要である。

第2期データヘルス計画においても、HbA1c5.6%以上の有所見率の増加の抑制、糖尿病重症化予防（新規透析者数0人）を期間目標としている。

2.4 介護予防対策

介護保険新規申請原因疾病調査では、関節・筋肉疾患、認知症、脳血管疾患が多くを占めることから、若い世代からの運動習慣の推奨、高齢者のロコモ対策、フレイル対策、生きがい対策が重要である。また、脳血管疾患予防につながる高血圧予防、糖尿病予防等の生活習慣病予防対策が必要となっている。

2.5 その他

上記に加えて、メンタルヘルス対策（自殺予防や適正飲酒）、健診受診率及び保健指導実施率の向上が重要となってくる。

3 実施している事業

3.1 乳幼児を持つ親への尿中塩分測定（働き盛り世代の生活習慣の改善）

[目的] 子育て世代及び働き盛り世代の生活習慣の改善を図る取組を強化する。

[対象者] 子育て世代及び働き盛り世代

[方法、内容] 乳幼児健診時等の子どもに対する食育事業を通じ、保護者の生活習慣の改善を促すために、尿中塩分測定を実施。改善が必要な者へは保健指導を実施する。

[評価] 塩分摂取量は男性女性ともに悪化している。ナトリウムカリウム比は、女性は改善しているが、男性は悪化している。体内の塩分を効率よく排出するカリウムを多く含む野菜や果物、豆類・豆製品の摂取を推奨しており、ナトリウムカリウム比を指標としている。

	男性		女性	
	塩分摂取量	Na/K比	塩分摂取量	Na/K比
目標値	7.5g未満	4.0未満	6.5g未満	4.0未満
平均値	8.0g (昨年度+0.6g)	4.2 (昨年度+0.6)	8.5g (昨年度+1.2g)	3.9 (昨年度-0.1)
目標値 達成者	55.9% (昨年度+5.9%)	51.4% (昨年度-13.3%)	18.2% (昨年度-18.6%)	59.5% (昨年度-3.7%)

[資料]京丹波町・乳児前期健診対象者の保護者への尿中塩分測定結果（R3）

3.2 血管リフレッシュ教室（高血圧症予防）

[目的] 高血圧についての知識を深め、自身の生活を振り返り、行動変容を促すことで、各数値の改善を図り動脈硬化を防ぐ。

[対象者] 特定健康診査受診者のうち、①HbA1c6.1%以上、6.4%以内の者②高血圧症Ⅰ度、③eGFR50以上60未満のいずれかに該当する者。また、高血圧または糖尿病の治療中の者を除く。

[方法、内容] 医師や栄養士などによる講話を実施。また、数値の「見える化」による減塩への意識づけのため、参加者に器具を貸し出し、各家庭で尿中塩分・血圧・汁物の塩分濃度の測定を行う。

[評価] 令和3年度の参加者9名のうち5名が指導前と比較し、指導後に塩分摂取量が下がった。数値の見える化によりモチベーションが高まり、行動変容につながっている。今後も教室参加者のフォロー教室も併せて継続して実施していく。

3.3 糖尿病腎症重症化予防事業（糖尿病予防）

[目的] 糖尿病が重症化するリスクの高い住民健診精密検査未受診者・治療中断者を医療に結びつけるとともに、糖尿病で通院する患者のうち重症化するリスクの高い者に対し、医療機関と連携して保健指導を行い、慢性腎臓病（人工透析）への移行を防止する。

[対象者]

■ハイリスク者

特定健康診査受診者のうち、糖尿病治療中の者で①または②の条件を満たす者

①尿蛋白(+) ②eGFR60ml/分/1.73 m²未満 ※70歳以上は40ml/分/1.73 m²未満

■未受診者

特定健康診査受診者のうち、HbA1cが6.5%以上で医療機関未受診の者

■治療中断者

過去1年間（※H30年度は過去5年間で実施）に糖尿病の治療をしており、直近6か月以内に糖尿病治療薬剤名等で治療をしていない者

[方法、内容]

■ハイリスク者対策

同意者に対し、かかりつけ医との連携のうえで保健師・栄養士が個別指導を行う。

■未受診者対策

郵送で受診勧奨を行い、受診のないHbA1c7.0%以上の者には電話等で勧奨を行う。

■治療中断者対策

郵送で受診勧奨を行い、受診のない者には電話で確認する。

[評価] この事業は数か月や1、2年で効果が表れるものではなく、また、長期にわたりフォローが必要な方がほとんどである。年度を越えて長期にわたってフォローする重要性を認識しながら事業を進めることとする。長期的視点においては、データヘルス計画の全体評価指標である「転入・保険異動によらない新規透析者0人」を目指す。

	R3年度
ハイリスク者対策実施率 (指導者数/対象者数)	20.0% (1人/5人)
未受診者対策実施率 (受診者数/対象者数)	57.1% (4人/7人)
治療中断者対策実施率 (受診者数/対象者数)	0% (0人/3人)

[資料]京丹波町・糖尿病性腎症重症化予防事業の実施状況

3.4 高齢者の保健事業と介護予防等の一体的実施 [介護予防対策]

[目的] 国民健康保険と後期高齢者の保健事業を接続することで、継続的な支援を行い、疾病予防とフレイル予防を図る。

[評価] ハイリスクアプローチとして、糖尿病重症化予防、低栄養予防を実施している。アセスメントを行い、必要な方には主治医と連携して保健指導・栄養指導を実施した。ポピュレーションアプローチとして、住民主体の地区サロン活動や通いの場等で健康教育を20か所で実施。チェックリストを活用するとともに、介護予防・健康管理・感染症予防の講話、握力測定などを行った。コロナにより高齢者の外出する機会が少なくなる中で、集まりのきっかけとすることができた。健康状態不明者への介入が課題であり、今後実施を検討していく。

3.5 その他

メンタルヘルス対策として、自殺対策推進計画に基づき、心の健康相談の実施やこころの体温計の導入、ゲートキーパー研修を開催するなど、関係機関と連携しながら取組を進めている。

健診については、すべての健診項目の無料化、がん検診と合わせた総合健診の推進、日曜健診の実施、個別健診の実施を柱に受診しやすい体制づくりに取り組んでいる。

また、受診勧奨対象者への働きかけや各種保健指導の糸口とする重要な場として、健診結果説明会を実施。健診結果を貼付することで健康状態を経年的に把握できる「健康手帳」を全員に交付するなど、健診結果を丁寧に説明している。

4 地域の現状と健康課題まとめ

健康寿命に影響を及ぼす改善すべき健康課題

項目	現状
ライフスタイル 	<ul style="list-style-type: none"> 交通手段として車が欠かせないことなどから、運動量が少ない人が多い。 男性は毎日飲酒する人の割合が高く、喫煙者も多い傾向にある。 保存食（漬物）や野菜は食べているが、調味料等からの塩分摂取量が多い（保健活動より）。 地域の集まりなどの場で間食を準備する習慣がある（保健活動より）。 特定健診受診率、がん検診受診率は府平均より高い。
リスク要因 (健診結果等) 	<ul style="list-style-type: none"> 男性女性ともにメタボ予備群、血圧リスクのある者が多い。 脂質異常症は若い世代から有所見者の割合が高い。 血圧、糖尿は50歳代から有所見者の割合が高い。 20歳に比べ体重が増えている者の有所見者割合は、体重が増えていない者と比較し高い。
病気の発症状況 (受療状況等) 	<ul style="list-style-type: none"> 女性の降圧剤を使用する者がやや多い。 男性女性ともに高血圧疾患の受療者数比が高い。 男性女性ともに脳梗塞の受療者数比が高い。 男性の後期高齢者の透析の割合が増加している。
要介護の状況 	<ul style="list-style-type: none"> 京都府と比較し、男性女性ともに平均寿命・平均自立期間ともに下回っている。 原因疾患は、関節・筋肉疾患、認知症、脳血管疾患が上位を占める。 男性は脳血管疾患と認知症、女性は関節・筋肉疾患と認知症、骨折が多い。
死亡状況 <small>現状の7ポイント結果からの健康課題</small>	<ul style="list-style-type: none"> SMR（標準化死亡比）では男性女性ともに老衰がかなり高い。 男性は肝疾患、次いで肺がんが高い。女性は、脳内出血、次いで胃がん、心不全がやや高い。 男性の脳梗塞、大腸がん、女性の脳梗塞、肺炎は実死亡者数と期待値との差異が大きい。

- 働き盛り世代の生活習慣の改善
- 高血圧症予防
- 糖尿病予防
- 介護予防対策
- その他（メンタルヘルス対策、健診受診率・保健指導率の向上）

健康寿命延伸のため令和3年度に実施した内容と取り組みの方向性

【関連計画】

第2次京丹波町総合計画、京丹波町健康増進計画（第2次）、京丹波町食育推進計画、京丹波町高齢者福祉計画・介護保険事業計画、京丹波町国民健康保険第2期データヘルス計画・第3期特定健康診査等実施計画

実施している事業	対応する健康課題
乳幼児を持つ親への尿中塩分測定	1
血管リフレッシュ教室	2, 3, 5
糖尿病腎症重症化予防事業	3, 5
高齢者の保健事業と介護予防等の一体的実施	4, 5
メンタルヘルス対策 健康診査・保健指導の充実	5

【次年度以降の方向性】

これまでの事業の継続に加えて、下記の事業を新たに実施することとする。

- ウォーキングアプリ（インセンティブ事業）を導入し、運動習慣の定着を図る。
- 適正飲酒の普及啓発
- 一体的実施における健康状態不明者への介入